

実施中期計画の変更について

- 2020年7月29日に六ヶ所再処理工場、12月9日にMOX加工工場が事業変更許可を取得。
- 日本原燃による六ヶ所再処理工場及びMOX加工工場の暫定の操業計画、電気事業者によるプルトニウム利用計画が公表されたことを踏まえて、使用済燃料再処理機構が、具体的な再処理量等について記載した実施中期計画を策定。

考え方

「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」（原子力委員会決定）の趣旨を踏まえ、計画の策定を行うこと。

回収されたプルトニウムが、MOX燃料として装荷されるタイミングで時宜を失わずに消費されること。

（再処理で回収したプルトニウムが、MOX燃料として発電所で装荷されるまでの期間は、設計・加工や輸送に係る期間を踏まえて4年と想定。）

		当面の計画			(参考) 2024年度以降の見込み	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
暫定操業計画 (日本原燃)	再処理量 (tU)	—	0	70	170	140
	回収Pu量 (tPu)	—	0	0.6	1.4	1.1
プルトニウム 利用計画 (電事連)	Pu消費量 (tPu)	0.2 (1基)	0.7 (1基)	1.4 (2基)	0.7 (1基)	1.4~2.8 [※] (2基~4基)
	プルサーマル実施	高浜3, 4 / 伊方3 / 玄海3 (年間利用目安量合計 2.1トン)			高浜3, 4 / 伊方3 / 玄海3	
実施中期計画	再処理量 (tU)	—	0	70	170	140
	Pu回収量 (tPu)	—	0	0.6	1.4	1.1
	MOX加工量 (tPu)	—	0	0	0	0.6
Pu保有量 (tPu)		45.9	45.2	44.4	45.0	43.4~44.8

※四捨五入により合わない場合がある。